

## 平成 28 年度第 4 回会計学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成 28 年 11 月 26 日（土）13：00～15：40

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：岸田委員長、松本委員、金川委員、阿部委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

### IV. 検討事項

組織の成長・発展に貢献する新たな会計教育モデルをもとに、授業モデル案について引き続き検討を行う。分野連携対話集会に向けての発表内容を検討する。

### V. 配布資料

資料① 会計的思考能力を育成するための会計教育（阿部委員）

資料② 組織の管理としての会計教育モデル（岸田委員長）

資料③ 事業価値の測定・事業継続を支援するための会計教育授業（案）（金川委員）

資料再 外部からの組織分析手段の教育モデル（松本委員）

その他 第 4 回委員会次第 第 3 回委員会議事録 平成 28 年度委員会名簿、分野連携アクティブ・ラーニング対話集会開催要項

### VI. 議事内容

対話集会を控え、会計分野からは「事業価値の測定・事業継続を支援するための会計教育授業（案）」（金川委員）の発表を行うことが提案・了承された。

引き続き、これまでの議論について議事録において再確認し、前回に引き続き新たな会計教育モデルにもとづいた 4 つの授業モデル案の検討、および対話集会の内容について検討が行われた。

（1）資料① 会計的思考能力を育成するための会計教育：授業モデル案の検討

資料①について、前回との改善点について次のような説明があった。

#### ①前回からの資料の修正

- ・ 15 回の講義のうち、創業体験までの基本学修は 4 回から 2 回に圧縮し、創業体験後に 2 回の演習を追加した。
- ・ 授業方略について、アクティブ・ラーニング、ビデオ教材、反転授業、など具体的な授業方法を追加した。
- ・ 創業体験の方法として、大学祭での店舗運営、地域活性化事業などに見られる商店街などとの連携、Web 上の仮想店舗の利用等、具体的な提言をした。

#### ②文章の修正

- ・ 授業環境とサポートという項目を追加し、授業の運営方法、大学の協力体制の必要性、他分野教員の協力の必要性など、このモデルを遂行する上で必要なサポート体制を追加した。

以上の説明に対し次のような意見が出された。

### ③資料全般に関して

- ・2単位授業ではなく、10単位くらいの授業として考える必要がある。会計教育の範疇を超えており、総合科目との位置づけが妥当。
- ・会計の教員だけでは限界がある。他分野の協力も必要であるが、放送大学やNHKなどのビデオ教材やWeb教材などを積極的に活用する。各分野の先生からよい教材を提案してもらおうとよい。
- ・このモデルは従来型の会計慣行が前提なので、もっと社会の変化を想定した内容を入れてもいいのではないか。
- ・ひとつの大学では実施が難しい。すべてをネット上で行えるような環境作りが必要。
- ・大学横断、分野横断、世代横断、時間・場所をも横断する新しいモデルをイメージする。実現可能性ではなく、こういった学びを学生ができるような環境作りの必要性を提言したい。

### ④創業体験について

- ・創業体験を授業化する場合の方法をもっと具体化する。疑似体験でなければ無理なのではないか。ソフトやビジネスゲームを利用することを前提に修正をする。
- ・ビジネスゲームをWeb上でするようなイメージでもよいかもかもしれない。
- ・現実的にはWeb環境でしかできない。

### ⑤倫理的留意点について

- ・倫理的な学修はもう少し具体性があるといいのではないか。創業体験にどのように反映するのか今後も検討していく必要がある。
- ・虚偽申請は不適正な申請、虚偽広告は過大広告、粉飾決算、違法配当、虚偽記載は表現を修正する。違法な事象が起きないように教育の仕組みを考える。
- ・自己責任の視点を持っているか、判断能力を問う・育成する。
- ・実例として、詐欺や搾取的な方法を見せておく必要がある。

### ⑥データサイエンスの組み入れについて

- ・会計データを越えたビックデータ等が必須の時代になっていく。データサイエンスの要素を入れておくことが必要ではないか。
- ・統計学は入れた方がいい。AIでは統計的なものの見方が必須となる。会計は経営の結果であり、その情報の利活用が重要となる。
- ・データサイエンスはデータの利活用としていろんなところに入れればいい。教育はビデオ教材でもよい。

### ⑦資金調達（ファイナンス）の要素について

- ・ファイナンスにはクラウドファンディングを入れる。これからのネット時代には必須の資金調達手段となる。
- ・クラウドファンディングは情報システムと会計を結びつけることになる。そのあたりを学ばせたい。IT、AIの知識は浅くてもよいので、学修させたい。

- ・現実の通貨ではなく、例えば、大学内で仮想通貨を作成し、その範囲内で疑似体験をすることも考えられる。
- ・すでにクラウドファンディングで資金調達をし、授業をおこなっている大学もあるので参考にする。

以上のような指摘を踏まえ、資料の修正を行い、授業モデルを完成させていくこととなった。

#### (2) 資料② 管理手段としての会計教育：授業モデル案の検討

資料①の基本学修、創業体験の中に同様の内容が含まれるので、そこで学修することとしたい。

#### (3) 資料 再 外部からの組織分析手段の教育モデル：授業モデル案の検討

資料①の会計情報の読み方に同様の内容が含まれるので、そこで学修することとしたい。

#### (4) 「グローバル時代の会計教育モデル」の図の検討

上記の(2)、(3)を踏まえ、2つの授業モデル案を資料①の会計的思考能力の育成モデルに融合した場合、これまでの図を修正する必要があるか検討がなされた。

- ・会計的思考能力の育成が他モデルの土台となるイメージ。
- ・管理会計と外部分析は1つのモデルに収斂できるか。分析手法が同一であっても目的は異なるため、まとめる必要はないのではないか。
- ・4つのモデルには番号があるが、必ずしも学ぶべき順序を意味しないため、番号は削除してよいのではないか。

以上のような議論の末、図は次のように変更されることとなった。

- ・「財務諸表分析」は「組織(企業)価値分析」に変更。
- ・「情報の分析・評価」は「組織活動の分析・評価」に変更。
- ・表下部の「会計教育」の文字を削除。
- ・「関連分野を横断した教育」を強調。
- ・「倫理観の醸成」を四角括弧に変更し、向かう矢印は横棒に変更。

#### (5) 対話集会について

##### ①資料③ 事業価値の測定・創出を支援するための会計教育：授業モデル案の検討

授業モデルの内容および前回からの変更点について説明がなされた。その後、対話集会に向け、資料の修正等について議論が行われた。主な意見は次の通りである。

- ・授業の位置づけの部分で現在の会計のおかれている状況、新たなモデルが必要になっている背景等に修正する。
- ・わかりやすいプレゼンを考える。会計的な表現は抜きにしたほうがよい。
- ・なぜ、このようなモデルを考えたのか、その方略の説明をした方がいい。
- ・会計的思考能力の育成の資料は添付してもよいが、説明そのものは他分野の人には理

解しづらいので必要ない。

- ひとつの科目・分野のアクティブ・ラーニングを掘り下げても意味がない。他分野との連携が今後の道であり、このモデルでその道筋を示したい。
- 実験的な授業でアドバンストな試みを会計の場合を事例に発信したい。

#### ②今後の進め方

- 対話集会のプレゼンおよび報告内容は上記の指摘を踏まえ、金川委員が作成し、みなに回覧し、最終的に完成させることとなった。

#### VII. 今後の方針

- 4つの授業モデル案の検討は今回までとし、最終的なまとめをしたい。
- 各授業モデルを委員会のまとめとして修正し、ネットで議論をすすめる。
- 来年度は対話集会での反応を参考に、実験授業づくりを検討する。

以上